

令和5（2023）年度
事業報告書

学校法人 二階堂学園

目 次

I. 令和 5 (2023) 年度事業報告	1
日本女子体育大学	5
日本女子体育大学附属二階堂高等学校	7
我孫子二階堂高等学校	9
日本女子体育大学附属みどり幼稚園	11
二階堂幼稚園	13
日本女子体育大学附属保育園	15
II. 財務の概要	17

I.令和5(2023)年度事業報告

令和5(2023)年度は、10月に学園創立百周年記念館が竣工し、そこを会場として記念式典・祝賀会、演技発表、記念フォーラムを開催するなど、各種の創立百周年記念事業を実施し、学園にとって節目の年となった。

施設設備等の整備事業としては、大学の第3体育館2階床・照明改修工事、附属高校のE棟3階ダンス教室リノリウム敷設工事、我孫子高校の東館1階女子トイレ改修工事、二階堂幼稚園の園周りフェンス改修工事等を実施した。

以下は、各設置校・園の事業報告の概要である(各校・園の事業報告詳細は5ページ以降参照)。

<日本女子体育大学>

令和5年度は改組・新学科開設から4年目と進み、設置計画完成年度を迎え、その後の改革に向けて特任教授と専任教員の人数バランスを考慮した採用人事を行った。また、一部学科においてはカリキュラムの見直しを行い、学則変更を実施した。大学院では、教員の専門分野を表に出していくよう「領域」を廃止し、領域と合わせて開設していた「特演科目」を共通化するカリキュラム改革を行った。さらに、内部質保証体制の整備にも着手し、令和6年度の外部認証評価受審に向けて準備を進めている。教育活動では、コロナ禍以前の状況に戻し全ての授業を対面で実施し、定期試験も通常的方式に戻して実施した。研究活動では、全教員に科学研究費獲得を奨励し、採択件数を増やすことができた。学生募集については、学生確保に繋がる具体的な改革を行ったが、全ての学科で入学定員充足には至らなかった。社会貢献活動等は、様々な大学主催事業を展開し、地域交流講座等もコロナ禍以前の状況に戻すことができた。学内環境整備に関しては、新棟の運用開始と研究室移設等の対応を行っている。

<日本女子体育大学附属二階堂高等学校>

教育目標の具現化を進めるために、個々の教員の課題を明確に把握させ、主体的に学校運営へ参画していくように意識改革を促した。教員の指導力向上のため、学習アドバイジング研修を実施して、生徒が主体的に学び自立性を促すための基礎的な知識やスキルの習得に励んだ。また、生徒や保護者の満足度を上げることが募集活動に直結するとの考えから各種アンケートを実施し、現状の課題や問題点の把握に努めた。募集活動においては、対面での説明会や見学会等を重視し、中学校訪問や塾訪問も積極的に行い、本校の認知度向上を目指し活動を行った。

<我孫子二階堂高等学校>

教育目標の実現のため、基礎学力向上、進路指導に関しての効果的な取り組みを行い、進学実績が向上し、進路結果は大学・短大の進学者が昨年より約8%伸びた。生徒の能力・適性・興味・関心、進路の多様化に対応できるように、教員の研鑽も積極的に行った。様々な背景を持つ生徒の在籍の中で、一人ひとりの個性を伸ばす丁寧な教育をアピールし、実践した。「チーム学校」として教員相互や保護者・生徒との信頼関係づくりを最重要事項にした結果、転・退学者の減少と受験生・入学生の増加に繋がった。

<日本女子体育大学附属みどり幼稚園>

園児たちが自ら考え、のびのび行動できるよう、日々の保育を行ってきた。今年度は、通常生活を取り戻し、4年ぶりに様々な行事を行うことができた。運動会は全学年一斉での開催となり、活気に溢れていた。環境面では、老朽化していたビオトープの改修整備を行い、以前にはなかった水の循環を取り入れた。水の流れる音にいつの間にか園児たちが集まり、それに伴い生き物や草木への興味関心も増し、保育環境が広がった。安全面においては、南門付近の夜間の照明の確保、日々の安全対策を徹底し、保護者が安心して預けられる環境作りが必要と考える。今後も日本女子体育大学附属としての特色を活かし、園児たちがのびのびと運動に取り組めるよう、グラウンドや体育館などの大学施設の利用を増やし、隣接する附属高校とも引き続き連携を図るなど、より良い保育環境作りを目指す。

<二階堂幼稚園>

「知・徳・体・食」とバランスの良い保育を継続して行うとともに、知育と体育の更なる充実を目指し実践してきた。知育面では、今年度より年中組に専用のボードゲームを使ったプログラミング教育を取り入れ、3学期にはiPadに触れるなど、興味関心を高めることができた。運動面では、ストライダーの活用やプール指導の強化を行い、全身運動を楽しみながら身体能力の向上を図った。徳育では、集団生活の中で同年齢や異年齢との関わりを通して、思いやりの心や社会性が育ってきた。安全対策として、送迎バス内に安全装置を取り付け、園児にもハザードランプの使い方を指導するなど安全管理を徹底した。募集では、SNSを積極的に活用することで具体的な取り組みを発信し、園に興味・関心を持ってもらうように努めた。また、大学との連携もアピールに繋がった。

<日本女子体育大学附属保育園>

園児一人ひとりの最善の利益を第一に考え、園児自らが興味を持ち主体的に遊べる環境を用意し、保育を行った。日本女子体育大学の基礎体力研究所と連携し、研究への参加や幼児の運動能力測定を行い、日常の保育に反映させて体力の向上に繋げた。また、大学総合体育館アリーナで運動会・発表会を実施し、多くの保護者や関係者を招き好評を得た。近隣の大東学園高等学校とは、福祉コースの生徒ボランティアの受け入れ、高校での園児と生徒の交流、体育館を使用してもらうなど連携が深まった。

以 上

各校・園の事業報告詳細（5ページ以降）の自己評価については、達成度を以下の基準で判定したものである。

- [A] 事業計画作成時に想定した目標を達成できた
- [B] 概ね目標を達成できたが一部に不十分な事項を残している
- [C] あまり成果を挙げるができなかった又は何らかの支障があり実施できなかった

1. 設置する学校の名称及び入学定員と学生・生徒・園児数

学 校 名 (所 在 地)	学部・学科等名	開設 年度	入学定員	収容定員	R5.5.1 現員
日本女子体育大学 〒157-8565 東京都世田谷区北烏山 8-19-1 学長 深代 千之	大学院 スポーツ科学研究科修士課程	年度 H5	人 15	人 30	人 42
	体育学部	S40	-	-	20
	運動科学科(R2 募集停止)	H11	-	-	9
	スポーツ健康学科(R2 募集停止)	H11	-	-	9
	スポーツ科学科	R2	220	880	773
	ダンス学科	R2	100	400	411
	健康スポーツ学科	R2	180	720	672
	子ども運動学科	R2	40	160	153
計			555	2,190	2,080
日本女子体育大学附属二階堂高等学校 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-17-22 校長 工藤 公彦	全日制課程普通科	S23	200※	600	213
我孫子二階堂高等学校 〒270-1163 千葉県我孫子市久寺家 479-1 校長 中島 太	全日制課程普通科	S42	260※	780	390
日本女子体育大学附属みどり幼稚園 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-17-22 園長 大平 春美		S22	88	280	239
二階堂幼稚園 〒270-1163 千葉県我孫子市久寺家 479-1 園長 志田 一美		S51	90	270	207
日本女子体育大学附属保育園 〒156-0055 東京都世田谷区船橋 7-20-16 園長 牟田 郁子		R2		93	88

※日本女子体育大学附属二階堂高等学校と我孫子二階堂高等学校の入学定員は、学則上の人数。

2. 令和5年度 応募・合格・入学者数

学 校 名	学部・学科等	入学定員	応募者数	合格者数	入学者数	備 考
日本女子体育大学	スポーツ科学研究科	15	24	20	19	
	大学院小計	15	24	20	19	
	スポーツ科学科	220	259	249	195	
	ダンス学科	100	147	121	105	
	健康スポーツ学科	180	218	205	157	
	子ども運動学科	40	53	45	37	
	学部小計	540	677	620	494	
	大学合計	555	701	640	513	
日本女子体育大学附属二階堂高等学校		160	145	137	82	
我孫子二階堂高等学校		200	1,101	1,043	149	
日本女子体育大学附属みどり幼稚園		88+若名	81		70	
二階堂幼稚園		90+若名	68		67	
日本女子体育大学附属保育園		25			20	

3. 役員・評議員・教職員（R5.5.1 現在）

【役員】

理事	理事長	石崎 朔子		
	常務理事	大西 史記	深代 千之	石塚 浩
	理事	中島 太	溝口 紀子	山下 敬緯子
		浅田 眞弓	宮嶋 泰子	桑島 俊彦
監事		伊勢呂 裕史	岡本 由美子	

< 令和 5 年度役員賠償責任保険契約の状況 >

(1) 団体契約者	日本私立大学協会
(2) 被保険者	記名法人…学校法人 二階堂学園 個人被保険者…理事、監事、評議員
(3) 補償内容	
① 役員（個人被保険者）に関する補償	法律上の損害賠償金、争訟費用等
② 記名法人に関する補償	法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等
(4) 支払い対象とならない主な場合	法律違反に起因する対象事由等
(5) 保険期間中総支払限度額	5 億円

【評議員】

溝口 紀子	小海 隆樹	羽生田 真一	大平 春美
小池 匠	志田 一美	牟田 郁子	柳澤 康彦
嶋住 英夫	山下 敬緯子	寺山 喜久	廣田 博子
高橋 和子	新井 清美	鈴木 貴美子	小野 貴子
吉良 加奈	市川 真知子	上治 丈太郎	工藤 公彦
穴戸 良子	鯛谷 和代	中島 太	福岡 孝純

【教職員（専任）】

大学教員	85 名
高等学校教員	48 名
幼稚園教員	29 名
保育園保育士	12 名
職員	72 名

4. 管理運営の概要（理事会等の開催状況）

会議名	令和 5 年度開催
理事会	5 回
評議員会	4 回
常務理事会	19 回
学園連絡会議	11 回（うち書面開催 5 回）

<日本女子体育大学>

区 分	事 項	結 果	自己評価
教育	4 学科開設完成年度後の教員人事とカリキュラム整備及び将来構想の検討	4 学科完成年度後の運営のために、令和 6（2024）年度に向けて教員人事を実施し、基礎体力研究所専任を含め合計 11 名の教員を採用し、一部教員の配置変更を行った。また、一部学科のカリキュラム改革等を行うため、学則変更を実施した。	A
	大学院改革の推進	昨年度同様に、学部生向けの入試説明を対面及びオンラインの併用で実施し、多くの進学者を集めることができ、定員を越える入学者を確保した。また、カリキュラム改革（専門領域廃止）を伴う学則変更を実施した。	A
	学長ガバナンスに伴う組織運営の改革	学長のリーダーシップの下、令和 6（2024）年度に実施予定の外部認証評価受審に向けて、内部質保証体制の整備等を進めている。	A
	コロナ禍における学生の学修の担保	前期当初から全ての授業科目を対面方式で実施し、コロナ禍以前の状況に戻すことができた。学期末の定期試験も以前の方式により多くの科目が集合一括により試験を実施した。	A
研究活動	教員の研究推進	科学研究費助成事業は新規・継続含め研究代表者 11 件、研究分担者 20 件が採択された。また、チャレンジ支援制度（挑戦研究費）を一部改定し今後の研究活動を支援している。	A
	FD 活動の充実	7 月に学科別 FD 研修を行い、9 月 13 日に学部全体での FD 研修を実施した。また、大学院独自の FD 研修会を 9 月 4 日に実施した。	A
	研究上の不正防止体制	不正防止計画推進委員会による年間 4 回の啓発活動と年間 1 回の研究倫理教育研修を行い、新規程に基づく科研費の執行に関する内部監査を実施した。	A
募集及び広報活動	確実な入学定員を目指す入試制度の改革	より多くの受験者確保のために指定校を増やし、各募集枠の人数配分を変更する等の改革を行った。しかしながら、4 学科とも入学定員の充足は達成できなかった。	C
	活発な学生募集イベントの展開	オープンキャンパスを年間 8 回計画し、全て来場型対面方式にて実施する。他に、ちょこキャン（縮小型見学会）、部活動体験 week、健美祭と同時開催のミニオープンキャンパスなど、様々なイベントを開催した。	A
	学生募集に繋がる大学主催事業の実施	8 月 19～20 日にダンス・ワーク・セミナーを来場対面型で開催した。	A
社会貢献・地域連携	大学主催事業の展開	① 保護者面談会：来校対面形式ではなくオンライン動画視聴により大学情報公開を 6 月に実施した。 ② ダンスコンクール：11 月 23 日に参加作品全てを来場審査により行い、受賞作品を 11 月 30 日に Web 公開した。 ③ 人見杯陸上競技大会：3 月 23 日（土）に世田谷区立総合運動場にて実施した。	A
	地域交流事業	地域交流講座の「春期」を 5 月下旬～7 月中旬に 7 講座、「秋期」を 9 月下旬～1 月下旬に 9 講座、いずれも来校対面形式で開催した。	A
グローバル化	SDG's 関連事業の推進	大学 HP に「SDG's の取り組み」ページを開設し、学内で実施している諸活動を公開した。	A
	総合情報システム更新	8 月中～下旬に総合情報システム更新を実施し、10 月に竣工した学園創立百周年記念館の情報インフラ整備にも対応した。	A
教育研究環境の整備	学内施設の適正な維持・管理及び整備	管財課と連携して、教室等の照明 LED 化を推進し、現時点で 50%が転換している。また、学園創立百周年記念館の運用開始に伴い管理体制の整備を進めている。	A

その他	創立 100 周年記念施設建設事業への協力	学園創立百周年記念式典における演技発表会と記念シンポジウムを大学の主導により実施した。また、学園創立百周年記念館への研究室の移設、授業・部活動での運用を進めている。	A
	外部資金獲得方策の検討・推進	企業等からの外部資金獲得を積極的に進めるための体制づくりとして、企画課を中心に新たな寄付金募集制度やネーミングライツ事業制度の立案を進めている。	B

〔特記事項〕



○ダンス学科「卒業公演」



○人見絹枝杯陸上競技大会



○地域交流講座（大人のためのクラシックバレエ）



○地域交流講座（リセットヨガ）

<日本女子体育大学附属二階堂高等学校>

区 分	事 項	結 果	自己評価
教育	教育目標の具現化	生徒の主体的な学びを促すために、生徒一人ひとりの夢や希望に寄り添い、「誰ひとりおいていかない」をモットーに、学習・学校生活・進路の面で生徒のサポートに取り組んだ。日常的な教育活動に限らず、諸行事やクラブ活動等においても、生徒自身で考え行動し、課題を発見し問題を解決していく力を育むことをめざした。ICT 機器の導入などにより、iPad でロイロノートなどを活用して学びを深める「双方向授業」を行うことで、一方的ではない授業を行うことができた。校則を見直すことで、規範意識の定着に取り組んだ。	A
	各コースの教育プログラムの実践	コースの特性を反映させたカリキュラムにより、深い学びにつながる専門的な授業を展開し、進路選択に大きな影響を及ぼした。また、コースごとの行事の企画やイベントへの参加は、将来の自己実現につながり、「総合的な探究の時間」では、課題発見・解決力を向上させることに繋がった。時代のニーズに合わせて現在の 5 コースのうちヒューマンケアコースを廃止し 4 コースに変更するため、教育課程の再編成に取り組んだ。	A
	その他の活動	日本女子体育大学との高大連携事業「ニチジョを体験しよう」には、2 年生が参加し、ダンスコースでは特別講師の派遣など、年間を通じて切れ目のない支援を受け、充実した実技講習を実施している。神田外語大学による、教員対象の「学習アドバイジング研修」を 2 日間開講し、対話における想像力や自律性を促すツールの基礎的な知識やスキルを習得し指導に活用している。国士舘大学との教育交流の一環としては、各学年のテーマに即したデリバリー授業を実施した。部活動では、強化部を中心に各種大会での活躍により、生徒募集にも望ましい影響を及ぼしているが、一部の運動部にとどまっている。文化部の活性化が今後の課題である。	B
生徒募集及び広報活動	入学生徒の確保	本年度事業計画においての最重要課題である生徒募集において、学校説明会・学校見学会・部活動体験等、対面式の活動を数多く実施することで本校への興味関心を深めてもらえることを目指した。また、中学校や塾への訪問活動等では、教職員が組織的に取り組み、接触者数の微増につながった。しかしながら、結果として実質的な入学者の増加に結びつけることはできなかった。一方で、都立高校の男女別定員の完全撤廃などの影響により、あらためて女子高の意義、女子教育の在り方の再定義が必要と思われる。	C
	教学広報の促進及び情報発信体制の整備	動画等での教育活動の可視化、ホームページや SNS 等を活用した情報発信力の向上、対面式の説明会の運営等により、本校の認知度や説明会参加率を増やしていった。また、次年度からは母集団の増加と定着率を高めるために、募集 DX サービスを導入し戦略的な広報活動の実施に向けて、準備を進めている。	B
	入試改革	キャリアデザインコースでは人物重視型の C 推薦を新設したほか、併願優遇条件の一部緩和や塾紹介制度の活用など、志願者の裾野を広げ、多様な人材の確保に一定の効果をもたらしたが、実質的な入学者の増加にはつながらなかった。	B
	外部団体との連携	ダンスやスポーツ、「N-SALC」等の特定の分野においては、大学などの協力を得ながらイベントの実施や広報活動に取り組むことができたほか、中学生対象の外部模試の会場校として、一定の成果をあげている。	A
社会貢献・地域連携	ボランティア活動	次年度開設予定である「世田谷区福祉避難所」の環境整備を終えた。また、北沢警察署による「交通安全のつどい」	A

		にてダンス部・新体操部・チアリーディング部が演技を発表した。今後は、松原まちづくりセンターや明大前商店街などの地域連携を模索していく必要がある。また、創立 100 周年行事の演技発表を見学した世田谷消防署長からの強い要請により、ダンス部がイベントに協力することで、本校の認知度の向上や地域との繋がりを深めることができた。	
環境整備	補修及び整備	施設や設備の老朽化がかなり進んでおり、生徒の安全を配慮し補助金制度等を活用し、補修や改修工事を計画的に実施していく。特に教室の雨漏りについては、緊急性が高く、当初の計画になくとも、速やかに修繕できるように法人本部に働きかけていく。	B
グローバル教育	「N-SALC」の活用	神田外語大学との運営会議を定期的に設定し、活性化に努めてきた。英検対策や異文化に触れる各種イベントは、グローバル社会に適応する資質や能力を育成することにつなげた。施設は常駐しているネイティブ講師とのコミュニケーションの場として利用されており、「N-SALC」における教育活動は、本校の特色の一つとして他校との差別化の一助となっている。また、みどり幼稚園の英語教室としても大いに活用されている。	A

〔特記事項〕



○合唱コンクール



○N-SALC イベント（夏祭り）



○体育祭（日本女子体育大学総合体育館）



○学校説明会



○生徒総会



○塾対象説明会

<我孫子二階堂高等学校>

区 分	事 項	結 果	自己評価
教育	① 教育目標 教育課程 ② ITC 教育の 推進 ③ 進路指導	新教育課程の完全移行を翌年に控え、カリキュラムの策定については完成したものの、家庭や地域が求めるカリキュラム像との乖離がみられるため、カリキュラムマネジメントの強化が必須であった。データに基づいた授業プランの策定を行うことが継続して求められた。土曜日の有効活用の点では教員主催による課外講座「マスター講座」を実施した。委員会を中心として外部との連携を検討し、内容を充実させるとともに、進路実績の向上を目指した実施内容の検討を行うことができた。進学率については、大学・短期大学への進学率の5割超を達成することができ、進学コースでは国公立大学への進路実績を作ることができた。ICTを活用する授業の研鑽を行い、Microsoft クラウドサービスの運用を推進し、教員間の連携、生徒教員間の連携を強化することができた。授業内外での活用に積極的に取り組み、オンライン教材「スタディーサプリ」の活用を併せて、生徒それぞれに合わせた、きめこまかな指導を行うことができた。	B
入試募集及び 広報活動	① 入学定員の 確保 ② 受験生の獲得	今年度は新たな通学圏内での受験生獲得を掲げ、ホームページ、SNS などのコミュニケーションツールを活用することにより、夏の「体験入学」や秋の「学校説明会」は昨年度よりも参加者が増加し、結果として受験者数を増加させることができた。しかし、受験者数が減少している地域などもあるため、中学校訪問や塾訪問などの強化をしていく必要がある。入学定員の確保については、昨年度 149 名の入学者から今年度は 186 名の入学者を確保することができた。これは歩留まり率が 9.6%とここ数年で最高の数字であったためである。一見すると公立学校の倍率に左右されているだけに見えるが、歩留まり率 9.6%の内訳（進学コース 14.5%、総合コース 8.5%）から見えてくるのは成績の高い併願者の獲得、本校でいえば進学コースの受験者の獲得が重要と言える。入試広報部の注力している取り組みの一つとして、進学コースの受験者増に力を入れてきたことが高い歩留まり率に繋がっており、入学者の増加にも繋がったと考えている。	B
社会貢献 地域連携	① 地域連携講座 ② 地域ボランティア 活動の充実 ③ SDG's 活 動 の 充実 ④ 福祉教育の充実 ⑤ 高大連携の充実	我孫子市の高校生ボランティア活動隊「ヤングセイバーズ」を再開し、駅前広場緑化計画に参画するなど、地域との繋がりが活性化した。また、福祉教育重点校の最終年にあたり、3年間の取り組みの集約や成果発表を行った。高大連携事業では、土曜講座で出前授業などを中心に連携を深めたが、次年度はより多くの取り組みを計画する必要がある。	B
グローバル化	新たな国際交流事業の展開	まずは基盤となる英語教育の充実に留まり、海外への修学旅行という以前の事業すら諸般の事情により実施できていないので、次年度本格的に検討を始める。	C
施設・その他	① 建物修繕 ② ECO活動 SDG'sの推進	施設は貯水槽等の工事、LED 交換（年次交換）を実施した。さらに生徒用トイレに関しては私立学校施設整備費補助金（私立高等学校等施設高機能化整備費）を利用して修繕を行った。経年修繕が必要な箇所が多く目につき、今年度は本館全フロアの窓フィルムの貼り替え、体育館仕切りネット、グランド防球ネットの張り替えを行った。また、生徒からの要望があった東館前の水洗い場を新たに設置した。引き続き、生徒募集の点からも順次改修を図りたい。	B
全体	① 教職員の研修 ② 外部資金・補助金の等獲得	年度末に集約したところ、昨年より研修の機会が増え、教職員のスキルアップに繋がった。補助金などは、予定し申請をしたものについてはすべて獲得できた。経常費補助金は、次年度に反映させるように配分システムを精査した。	B

外部資金は本校施設の充実に伴うものなので、体育館に関しては、天井の工事終了を待ち、本格的に貸し出しを計画している。

〔特記事項〕



○マスター講座（基礎数学の授業）



○学園祭（模擬店の準備風景）



○高校生ボランティア（ヤングセイバーズ）



○夏の体験入学（食堂での様子）



○修学旅行 広島・大阪方面へ（USJにて）



○進路ガイダンス（小論文講座）

<日本女子体育大学附属みどり幼稚園>

区 分	事 項	結 果	自己評価
教育（保育）	カリキュラム	① 園児が主体的に活動する環境を作り、保育の質の向上に努め、一人ひとりに合わせた援助をし、発想力や達成感等、それぞれの成長を感じられた。 ② 古くから伝承されてきた行事や文化を積極的に取り入れ、興味関心が持てるよう保育に取り入れた。 ③ ビオトープの改修整備を行い、園児が生き物により興味関心が持てるようになり、また水の音にも癒され四季折々の様子が見られるようになった。 ④ 運動・リトミック・英語遊びの非常勤講師と連携を図り、園児の興味関心、感性豊かな心と体作りを行った。	A
	食育	園内の畑で野菜を育て、育てる大変さや収穫の喜びを感じたり、育てた野菜を給食で食べたりした。また、行事にも食育を取り入れ、園児たちの感性の育ちへと繋がった。	A
	預かり保育	3つの預かり保育クラスに担任を置き、園児一人ひとりを把握し、保護者が安心して預けられるよう保育を行った。また、長期休みにおいて、食育活動やお祭り・お楽しみ会を計画・実施し、楽しい生活が送れるよう保育をしてきた。その結果、次年度の預かり保育が増え、園児募集に繋がる要因の一つになったと考えられる。	A
	大学連携	附属園として大学の授業に参加し、園児と学生が触れ合う機会や、実践保育ができる環境の提供を行なった。園児にとっても、専門の教員や学生と関わる中でコミュニケーション能力や運動能力、技術の向上に繋がった。また、教育実習生を受け入れ、保育者の育成に協力をした。	A
	安全対策	園内のインターホンや施錠の徹底を行い、防犯対策は行ったが、日が暮れると南門付近の灯りがあまり確保できず、園児や保護者の安全に不安があり、フェンス等の防犯対策にも課題が残る。地域の警察署と連携をとり、年長児の警察見学、交通安全教室を開催した。また、教職員向けに防犯対策やサイバー攻撃等の講習会を行い、知識向上に繋がった。	B
研究活動	園内外への研修	コロナ禍で不足していた園外研修に、長期休みには参加することができ、保育力の向上、スキルアップとなった。	B
募集及び広報活動	広報活動	① 見学会や説明会、給食試食会の回数を増やしたり、よりわかりやすい資料を作るなど、興味を持ってもらえる工夫やアピールを行なった。 ② ホームページやSNSを活用し、日頃の保育や行事の取り組み等を積極的に配信し、幅広く情報発信を行った。今後はこれまで以上に情報発信を心がけ、園児獲得を目指す。 ③ 今年度よりプレ保育を開講し、在園児と一緒に行事に参加したり、保護者も一緒に楽しめる保育内容を考え、園児獲得につなげた。	A
社会貢献・地域連携	未就園児親子への支援	① 育児講習会や育児相談会を開催した。しかしながら、広報活動や開催日時・内容等に問題があるのか、参加者が少なかった。開催日時や内容を再検討し、来年度に繋げたい。 ② 園庭開放を行い、子育て中の保護者が集える場、教員と気軽に話せる場として開放した。また、幼稚園の保育を少しでも感じていただけるよう、お楽しみ時間を設けたところ、就園前の親子がたくさん参加してくれた。 ③ 幼小連携を図り、4年ぶりに年長児が近隣小学校での体験学習に参加した。就学に向けて、少しでも不安を取り除くことができるような機会となった。	B

子育て支援	在園児保護者への支援	<p>① 教育課程後の預かり保育において、保護者が安心して預けられるよう、利用人数に応じて教員の人数を増やし、安全に園児が楽しく過ごせるようにした。</p> <p>② 保護者にとって快適で便利な情報伝達手段となるよう ICT ツールを活用し、園での活動内容や伝達事項などをわかりやすく伝えた。</p> <p>③ 保護者支援のためのカルチャー講座を開講した。また、保護者サークルの支援も行い、保護者にとってリフレッシュできる場となるように協力した。</p>	A
その他	課外教室の充実	保護者支援、また収入源確保のため、年少・年中児向けの MAC を開講し、毎回参加者も多く園児にとっても楽しい時間となった。保護者からも日常保育と違う経験が好評であり、収入の増加にも繋がった。	A

〔特記事項〕



○完全給食



○屋上でチョークあそび



○育てたひまわり



○発表会・みどりクラブ（未就園児親子）



○一斉防災訓練



○第 77 回卒園式

<二階堂幼稚園>

区 分	事 項	結 果	自己評価
教育（保育）	知育	<ul style="list-style-type: none"> ボードゲーム等の教材を使用したプログラミング教育を年中組から取り入れ、1学期より開始した。3学期よりiPadに触れたことで、更に興味関心を高めることができた。年長組はiPadによる基本動作を1学期から取り入れ、新たなプログラム作成にも挑戦し、小学校に向け論理的思考力や表現力を身につけた。 知育指導では、年長児は習字や実際の手紙のやりとりにも挑戦し、文字への関心を高めたことで読み書きの向上に繋がった。 製作活動では、色々な技法や用具の使い方を学びながら様々な作品を作り出すことで巧緻性を高めるとともに、表現する意欲や創造力を養った。 	B
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ストライダーを活用し、体の中心軸である体幹を鍛え、バランス感覚を養い、運動会で保護者に披露することができた。 年長組の専門指導員による水泳指導の回数を増やしたことで、より水に親しみ、水の感触を味わいながら、負荷の少ない水中での全身運動を行うことができた。水泳指導を通して体幹を使ったバランス感覚や全身の筋力を鍛え、免疫力・運動能力の向上に繋がるよう努めた。 	A
	徳育	<ul style="list-style-type: none"> 集団生活を通して、同年齢だけでなく未就園児を含む異年齢との関わりも深まり、相手を尊重し思いやりを持って行動できるようになった。 月間本指導を通して、人間関係能力や規範意識を高めることができた。 自然や身近な動植物に親しみ、もっと知りたいという好奇心や探求心を持ち、豊かな心情を育むことができた。 	A
	リトミック	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修を行い、職員のスキルアップに努め、その学びを保育に活かした。 学年毎に合ったカリキュラムに沿って指導をし、聞く力を育て、集中力・即時判断力・表現力を養った。 	A
	食育	<ul style="list-style-type: none"> 食体験を通して、食べる楽しさや作ってくださった方への感謝の気持ちを育むことができた。 準備や片づけを含んだ給食の時間を通して、自ら食を営む力の基礎を培った。 それぞれの年齢に合った野菜栽培や視聴覚教材を通して、食の大切さや命の尊さを知り、好き嫌いが少なくなってきた。 	A
	大学関連	<ul style="list-style-type: none"> 日本女子体育大学の子ども運動学科や基礎体力研究所と連携し、運動遊びや運動能力測定等を行い、保育や教員の質の向上に活かすことができた。また、募集においても大学との連携がアピールに繋がった。 	A
	安全対策	<ul style="list-style-type: none"> バス送迎に当たっての安全対策を実施し、訓練や指導を通して園児の発達に応じた支援を行った。また、バス内に見落としを防ぐシステムを導入し、安全装置を取り付け、安全管理を強化した。 地域の警察との防犯訓練は、互いの日程が合わず連携が取れていないので、引き続き予定を組んでいく。 	C
	その他（施設）新型コロナウイルス感染症拡大防止対策	<ul style="list-style-type: none"> 総合遊具の設置年数が経ったため、日々確認・点検をし環境を整えているが、今後も安全に配慮した点検は継続し、実施していく必要がある。 前年度に引き続き、食事中のパーテーションの使用や密になるバス内の消毒、園児の手指消毒に取り組み、感染症の拡大防止に努め、大きな流行はなかった。 	B

研究活動	園内外保育 嗜好調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門職としての能力向上を目指し、園内外の研修に積極的に参加した。参加者は保育に活かせるようレポートを作成し、職員間で情報を共有して保育の充実を図った。 ・ 嗜好調査を行い、各家庭の情報を得ることで、給食や食育指導に活かすことができた。 	A
募集及び 広報活動	園庭開放・未就 園児教室の充実 SNS の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園庭開放を増やし、来園しやすくなるよう心がけた。また、園児との触れ合いを積極的に取り入れたことで当園の良さを感じてもらい、未就園児教室へと繋げて園児獲得を図った。 ・ 未就園児教室で、未就園児や保護者に寄り添った丁寧な対応を行うことで園の魅力を体感してもらい、募集に繋がったが、我孫子市の未就園児数が少なく、来園者数の減少が見られた。募集後も、引き続き見学から入園に繋げているので、今後も丁寧な対応により園児獲得に努める。 ・ 保育の様子や給食等を多くの方に見てもらえるよう、積極的に SNS に投稿し、活用した。また、早めに宣伝することで募集に繋がるよう、手作りでポスターや広告・案内を作成し、掲示・配布に取り組んだ。 	B
社会貢献・ 地域連携	小学校訪問 実習生受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校との連携を図り、実際に訪問して交流を図ったことで、就学に向けての期待や意欲を高められた。 ・ 望ましい職業観・勤労観や職業に関する知識・技能を身につけられるように、適切な指導や助言を行った。 	A

〔特記事項〕



○知育「プログラミング」



○運動「ストライダー」



○徳育「異年齢との触れ合い」



○食育「野菜栽培」



○安全対策「ハザードランプの使い方」



○園庭開放「未就園児と在園児で体操」

<日本女子体育大学附属保育園>

区分	事項	結果	自己評価
教育（保育）	理念	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間計画・毎月の指導計画に添って保育を行った。 ・ 体育大学の附属保育園として、自発的に身体を動かして遊べる環境を整え、運動能力を高めたり体力向上を促した。 ・ 園児たちの興味関心のあることを大切にし、日常の保育や製作活動に反映させて楽しんだ。 ・ 保護者会で、栄養士の専門的な視点から話を聞く機会を設けた。また、スライドを使用して園児の様子がわかるよう工夫し、成長を共に喜んだ。 ・ 食育では、年間を通して野菜栽培や調理活動、栄養士による指導を行い、食材への関心や作って食べる喜びを得られた。 	A
募集	世田谷区による決定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園見学の際、園長または主任が園内を案内し、保育園で過ごす園児の様子を見てもらいながら園の魅力を伝えたり、質問に応じたりした。 ・ 開園以来、初めて定員数に達した。 	A
広報活動	ホームページ 掲示板	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページに保育内容や園だよりを掲載し、保育を公開した。 ・ 路面掲示板を活用して、園だよりの掲示を行った。 	A
社会貢献 地域連携	地域交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画していた地域の人生経験豊富な方々との交流は、実施しないこととなった。 ・ 近隣の大東学園高等学校福祉コースの生徒ボランティアの受け入れや、園児と生徒との交流、同高校の体育館を園児の活動で使用させてもらうなど、多くの連携ができた。 	B
大学・高校との連携	大学との連携 みどり幼稚園との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 附属保育園として、保育士を目指す学生を実習生として受け入れ、支援・指導を行った。実習生責任実習等を通して、園児との関わり方や保育士の業務について学べる機会とした。 ・ 基礎体力研究所による研究「乳幼児期における心臓および骨格筋の発育発達と身体活動量の関係」への協力や、体力測定の結果を保育に反映させた。 ・ みどり幼稚園年長児との交流会を行い、附属園年長児同士の交流を楽しんだ。 	B

[特記事項]



○運動会（大学総合体育館アリーナ）



○運動能力測定



○発表会(大学総合体育館アリーナ)



○調理活動（クッキー作り）



○夏野菜栽培

Ⅱ.財務の概要

(1) 決算の概要

①貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

資産の部

(単位：百万円)

科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
固定資産	25,755	25,439	25,496	25,642	27,637
有形固定資産	14,881	17,795	17,276	18,507	21,206
特定資産	10,132	7,003	7,874	6,789	6,189
その他の固定資産	741	641	346	345	242
流動資産	2,983	3,243	3,279	5,460	2,627
合計	28,738	28,683	28,775	31,102	30,264

負債の部、純資産の部

科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
固定負債	989	991	1,008	3,236	2,987
流動負債	1,189	1,292	1,379	1,458	1,382
計	2,179	2,283	2,387	4,693	4,368
基本金	28,170	31,194	31,339	31,417	32,960
繰越収支差額	△ 1,611	△ 4,794	△ 4,951	△ 5,008	△ 7,064
計	26,559	26,400	26,387	26,409	25,896
合計	28,738	28,683	28,775	31,102	30,264

イ) 財務比率の経年比較

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
運用資産余裕比率	280.4%	216.0%	244.3%	198.4%	127.0%
流動比率	250.8%	251.0%	237.7%	374.6%	190.1%
総負債比率	7.6%	8.0%	8.3%	15.1%	14.4%
前受金保有率	230.8%	285.6%	246.6%	509.0%	248.9%
基本金比率	100.1%	100.1%	100.1%	103.3%	107.4%
積立比率	96.1%	75.5%	76.4%	83.7%	59.8%

*上記の表の金額は百万円未満を四捨五入しているため合計など数値が一致しない場合があります。
なお、以下の表についても同様です。

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

収入の部

(単位：百万円)

科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学生生徒等納付金収入	3,273	3,270	3,125	3,061	2,977
手数料収入	70	59	57	49	50
寄付金収入	36	40	29	39	44
補助金収入	1,186	1,062	1,037	1,096	996
資産売却収入	200	300	100	300	2,200
付随事業・収益事業収入	214	189	195	200	206
受取利息・配当金収入	105	95	104	115	99
雑収入	147	118	97	251	126
借入金等収入	0	1	1	2,500	1
前受金収入	985	1,027	1,139	1,006	933
その他の収入	2,425	5,068	1,271	1,768	1,264
資金収入調整勘定	△ 1,248	△ 1,122	△ 1,129	△ 1,425	△ 1,138
前年度繰越支払資金	2,240	2,275	2,933	2,813	5,120
収入の部合計	9,634	12,381	8,958	11,772	12,878

支出の部

科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費支出	2,573	2,655	2,475	2,631	2,367
教育研究経費支出	1,144	1,150	1,070	1,181	1,504
管理経費支出	493	504	473	490	511
借入金等利息支出	0	0	0	1	12
借入金等返済支出	1	1	1	0	251
施設関係支出	497	3,524	45	1,643	3,090
設備関係支出	125	69	49	78	208
資産運用支出	2,537	1,563	1,996	580	2,585
その他の支出	78	64	129	127	103
(予備費)					
資金支出調整勘定	△ 89	△ 83	△ 92	△ 78	△ 78
翌年度繰越支払資金	2,275	2,933	2,813	5,120	2,326
支出の部合計	9,634	12,381	8,958	11,772	12,878

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位 : 百万円)

科 目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動による資金収支	教育活動資金収入計	4,620	4,691	4,517	4,625	4,376
	教育活動資金支出計	4,207	4,310	4,018	4,302	4,382
	差引	412	382	499	323	△ 6
	調整勘定等	138	26	133	△ 284	28
	教育活動資金収支差額	550	408	633	39	22
施設整備等活動による資金収支	施設整備等活動資金収入計	2,031	4,261	773	1,469	953
	施設整備等活動資金支出計	2,622	4,692	1,697	2,071	3,598
	差引	△ 590	△ 431	△ 924	△ 602	△ 2,645
	調整勘定等	△ 228	226	9	△ 51	29
	施設整備等活動資金収支差額	△ 818	△ 205	△ 916	△ 653	△ 2,616
小計 (教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		△ 268	203	△ 283	△ 614	△ 2,594
その他の活動資金収支計	その他の活動資金収入計	860	921	594	3,182	2,362
	その他の活動資金支出計	558	466	430	261	2,561
	差引	302	455	164	2,921	△ 199
	調整勘定等	1	1	△ 1	0	0
	その他の活動資金収支差額	303	456	163	2,921	△ 199
	支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	35	658	△ 120	2,307	△ 2,793
	前年度繰越支払資金	2,240	2,275	2,933	2,813	5,120
	翌年度繰越支払資金	2,275	2,933	2,813	5,120	2,326

ウ) 財務比率の経年比較

科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動資金収支差額比率	11.9%	8.7%	14.0%	0.8%	0.5%

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年推移

(単位：百万円)

		科目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
教育活動収入の部	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	3,273	3,270	3,125	3,061	2,977	
		手数料	70	59	57	49	50	
		寄付金	12	10	11	21	32	
		経常費等補助金	908	1,046	1,034	1,048	987	
		付随事業収入	214	189	195	200	206	
		雑収入	147	124	97	251	126	
		教育活動収入計	4,623	4,699	4,519	4,629	4,377	
		科目	決算	決算	決算	決算	決算	
		人件費	2,565	2,663	2,493	2,621	2,375	
		教育研究経費	1,554	1,539	1,446	1,564	2,003	
		管理経費	584	614	585	604	615	
徴収不能額等	7	6	6	2	14			
教育活動支出計	4,710	4,822	4,530	4,791	5,006			
教育活動収支差額			△ 87	△ 123	△ 11	△ 162	△ 629	
教育活動外収支	事業活動外収入の部	科目	決算	決算	決算	決算	決算	
		受取利息・配当金	105	95	104	115	99	
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	
		教育活動外収入計	105	95	104	115	99	
	事業活動外支出の部	科目	決算	決算	決算	決算	決算	
		借入金等利息	0	0	0	1	12	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	
		教育活動外支出計	0	0	0	1	12	
	教育活動外収支差額			105	95	104	114	88
	経常収支差額			18	△ 28	93	△ 48	△ 542
特別収支	事業活動収入の部	科目	決算	決算	決算	決算	決算	
		資産売却差額	26	2	0	0	1	
		その他の特別収入	311	53	27	74	34	
		特別収入計	338	54	27	75	35	
	事業活動支出の部	科目	決算	決算	決算	決算	決算	
		資産処分差額	4	185	3	5	6	
		その他の特別支出	2	0	129	0	0	
特別収支差額			331	△ 131	△ 105	69	29	
(予備費)								
基本金組入前当年度収支差額			349	△ 159	△ 12	21	△ 513	
基本金組入額合計			△ 794	△ 3,026	△ 270	△ 78	△ 1,549	
当年度収支差額			△ 446	△ 3,186	△ 282	△ 57	△ 2,062	
前年度繰越収支差額			△ 1,168	△ 1,611	△ 4,794	△ 4,951	△ 5,008	
基本金取崩額			3	2	125	0	6	
翌年度繰越収支差額			△ 1,611	△ 4,794	△ 4,951	△ 5,008	△ 7,064	
(参考)								
事業活動収入計			5,065	4,848	4,650	4,818	4,511	
事業活動支出計			4,717	5,008	4,662	4,797	5,024	

イ) 財務比率の経年比較

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費比率	54.2%	55.5%	53.9%	55.2%	53.1%
教育研究経費比率	32.9%	32.1%	31.3%	33.0%	44.7%
管理経費比率	12.4%	12.8%	12.6%	12.7%	13.7%
事業活動収支差額比率	6.9%	-3.3%	-0.3%	0.4%	-11.4%
学生生徒納付金比率	69.2%	68.2%	67.6%	64.5%	66.5%
寄付金比率	0.9%	1.3%	0.8%	1.0%	1.3%
補助金比率	23.4%	21.6%	22.3%	22.7%	22.1%
経常収支差額比率	0.4%	-0.6%	2.0%	-1.0%	-12.1%